２００４年（平成１６）１０月

カルメル

霊性センターニュース

１０月号

野の花

No. 192

「創造的に忠実を生きる」

カルメル会　中川博道

教会の歴史の中で、トレント公会議が行われた時代（16 世紀後半）に存在していた修道会のうち 75 パーセントの修道会が現在消滅していると言われます。様々な歴史があったのでしょう。身につまされる事実です。しかし、それは修道会のみならず、カトリック教会のどこにでもありうることです。

「カトリック（普遍的）」というとき、ともすると、「今あること」「今やっていること」「今までやってきたこと」などが、いつまでも変わらずに存在しなければならないかのような錯覚を持ちがちですが、歴史の事実は「カトリック」という言葉の意味を違うように体験してきました。「時代を超え、文化を超え、地域を越えてすべての人々にかかわる、すべての人のためのもの、どの人にも必要なこと」、カトリックという言葉を私はそのように理解してきました。イエスという生きるお方こそが「カトリック」です。修道会の 4 分の 3 が消滅しても、イエスは、様々な地域で様々な違う形でイエスに渇く人々によって脈々と生きつづけてきました。教会の活動やあり方も時代の中で大きく変化してきました。しかし、イエスの愛を生きる人々によって教会は生きつづけています。

このような現実を踏まえ思うことは、「創造的に忠実を生きる」ことです。自分たちが歴史の流れの最先端にあることの自覚は、二つの意味をいつも持っています。ひとつは、一切を歴史の伝統の流れの中から受け取っていることの自覚。そしてもう一方では、それらの一切を携え、神の創造的な働きかけの中で「次の一歩」を踏み出す責任です。歴史の中でお預かりしているものへの忠実さを持って、創造的に歴史にかかわるお方と共に「次の一歩」を歩み始める勇気が問われています。

見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。
初めからのことを思い起こす者はない。
それはだれの心にも上ることはない。（イザヤ 65.17）

心　の　泉

跣足カルメル在俗者会の会憲（2）

チプリアノ・ボンタッキョ神父

跣足カルメル在俗者会の会憲は数年前に総長館において設置された総秘書局によって作られたものです。この秘書局は神父一人と何人かの在俗者会員によって構成されています。

この秘書局は、カルメル在俗者会の２回にわたる（ローマとメキシコ）国際大会での話し合いの結果に基づいて、会憲の新しいテキストを作ったと思います。この会憲は去年（2003年）の５月に開催されたカルメル会の総会、またその総会によって選出された新しい総顧問会の承認を受けました。そして奉献・使徒的生活会省は、2003年６月16日の教令でもって、これを認可しました。

総顧問会がこの会憲の５年間の試しのための認可を願ったそうですが、奉献・使徒的生活会省は試しの認可ではなく、決定的な認可を与えたのです。これを受けて、総長様の今後の方針は取り敢えずこのテキストを５年間守ってみて、もし実際の経験によって何らかの修正や変更が必要と認められるなら、その修正と変更をあらためて聖座に請願するということです。

さて、奉献・使徒的生活会省の承認によって会憲の新しいテキストは従来の“生活の規則”に代わる世界のカルメル在俗者会の法典となりました。従って皆様もそれをよく勉強するようになるでしょう。その試訳をすでにお渡ししたと思います。

これからしなければならない作業は“特別規定”を見直すことです。“特別規定”は会憲を補足するものです。というのは世界共通の会憲では、世界のそれぞれの地域の異なった事情に対して細かい決まりを定めることは不可能なので、それぞれの地域において、その決まりを“特別規定”で定めることになります。カルメルの霊性の文化内受肉を計るために、その文化に相応しい表現をもってその霊性を表すことが必要です。

さて、“特別規定”はそれぞれの地域で作成されますが、総顧問会の承認を得たとき初めて法的効力を持つものとなります。

「今は在俗者会の歴史の中でも重要な時期、会の内部の絆を一層強化し、深める時期です。わたしたちの努力のすべてが、神の栄光と教会の善となるものでありますように」と。会憲の新しいテキストを紹介するカルメル会総長の手紙はこの言葉で結びます。各自がこの新しい会憲をよく勉強し、その内容を理解しながら守るようにすれば、総長の念願がかなえられるにちがいないと思います。

年間第２７主日

（ルカ１７：５－１０）

私たちは取るにたらないしもべ、義務を果たしただけです。

しばしば世界で起こっている害悪は、自分たちが重要だと思われたい人々によって引き起こされてきました。宗教や神の名において信じられない事を多くの人がするのは、まぎれもない事実です。一方さまざまな宗教によって、多くの社会的慈善事業もなされています。しかし今なおそのうちの多くの組織やグループが、みな分裂や存続の危機にさらされていることもまた事実です。厄介なのは、それらの行為が神のなさる業なのだと、彼らが心にとめおいていないことです。その代わりに、自分たちの名前を掲げて神のおられるところで自らを価値あるものと見なしているのです。

援助や奉仕が特別な報いをもたらすにちがいないものだと、時に私たちは感じてしまいがちです。善い行いをしたと他者に印象づけようとする誘惑は、その行為が何も特別なものではなくむしろ義務だという認識によって、拒まれなければならないものなのです。

人々が私たちをどう思っているか、それと私たちが価値あるものだと自負していることとの間には大きな隔たりがあるようです。その差は、自分たち以下のもの、より才能に恵まれなかったものと比較して自己を評価することから生じてきます。当然のことながら自分たちが一番となるのです。真の価値を見いだすために、私たちはあらゆることがらをよく考えてみなければなりません。自尊心は常に他に対して競争的です。私たちは富裕になりたいとは思わないかもしれませんが、今より豊かになりたいとは望んでいるものです。自らが何者であるかではなく、何ができるかを考えているのかもしれません。私たちがどれほどのチャンスを失っているかを認識することは、自分自身をより謙虚にもすることでしょう。それなら私たちは、“主よ、役に立たない従僕として、義務以上のことはしません”などとしぶしぶ言うことはないでしょう。

（Beatrice）

年間第２８主日

感謝するサマリア人(ルカ１７：１１～１９)

パウロはローマ人への手紙の７章２４節で、「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から誰がわたしを救ってくれるでしょう」と叫び、すぐ後に「わたしたちの主イエスキリストを通して神に感謝いたします」(２５節)と言います。パウロは精神的、内面的な意味でこの言葉を語っているのですが、今日の福音に出てくるサマリア人は文字通りにパウロの言葉を体験しました。

当時思い皮膚病にかかっていると祭司から認定された人は共同体から隔離され、惨めな生活をしなければなりませんでした。特にハンセン氏病の人たちはどれほど悲惨な状態だったことでしょう。肉体的苦しみだけでなく、彼らは神から呪われ、罰されていると感じる苦しみを味わっていました。もう普通の生活に戻れる望みはなく、肉体的にだけでなく、精神的にも朽ち果てていくしかなかったのです。

「重い皮膚病を患っている十人」がハンセン氏病患者であるとはいえませんが、共同体から隔離され、ひどい生活をしていたことは確かです。彼らはイエスがハンセン氏病の人をも癒したという噂を聞いたのでしょう。彼らの居住区を離れイエスに会いに来ました。危険なことです。他の人たちに見つかれば石を投げられるかもしれません。彼らはイエスに会い、「どうか私たちを憐れんでください」と頼みました。イエスはそれに対して「祭司たちのところにいって体を見せなさい」とだけ言います。彼らは半信半疑で祭司たちのところに出かけたことでしょう。ところがなんと全員、そこへ行く途中に癒されたのです。その中の一人、サマリア人は自分が癒されたのを知って、大声で神を讃美しながら戻ってきて、イエスの足元にひれ伏して感謝しました。残りの九人はイエスのところに現れませんでした。

やもめの献金(マルコ１２：４１～４４)のエピソードを思い出しました。大勢の金持ちがたくさん賽銭箱にお金を入れていました。ところが一人の貧しいやもめがレプトン銅貨２枚を入れると、主は「この貧しいやもめは誰よりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は乏しい中から自分の持っているものをすべて、生活費を全部入れたからである」と言って誉めました。主は皆が有り余る中から捧げているのを見抜いておられたのです。サマリア人以外の九人はこの金持ちたちと同じです。彼らは自分の得になることを優先させています。祭司に体を見せて、清いという証明を貰わないことには社会復帰できません。イエスに感謝するのは社気復帰を果たしてからでもいいと考えたのでしょう。そしてついにイエスに感謝を申し上げる機会を失ってしまったのです。主はいつも移動していたからです。自分の生活を第一に考え、安全で快適な生活を確保しておいてからおもむろに神に何かを差し出すのは、もちろんしないよりははるかによいことではありますが、神を十分にお喜ばせしないでしょう。神のものは神に返すのが第一であるべきだからです。「死に定められたこの体」から救っていただいたのだから、何を置いてもまず神を讃美すべきだったのです。

(新井)

年間第２９主日

気を落とすことなく祈りなさい

（ルカ１８：１－８）

祈りは奇跡を起こせます。それは疑いのないことですが、人はどのくらい辛抱強く祈り続けられるのでしょうか。イエスが私たち皆に期待するのは信仰における忍耐です。それは私たちの日常がたいへんな困難に見舞われたときでさえ、くじけることなく神に信頼しつづける心です。その心は、日常を通して神の働きかけがなされることを知ったときにのみもたらされます。イエスは私たちにその道を見せてくださいます。イエスは父と常に親しい関係におられ、初めより終わりの時まで、決して御父が拒むことのない方であるのを知っておられます。それは私たちが正義を授けてくださいと祈るからではなく、むしろ祈りを通して御父が子供たちにどれほどかかわってくださっているかに気づくからです。

ある人々はときどき思うかも知れません。考えられないほどの不幸から救われたり、どんな困難に対しても忍耐強くいられるたりするのは、祈りの結果によってもたらされるものだと。今日の福音を読んでみましょう。ある者が一人のやもめに借金をしていました。そのお金はより快適な生活をもたらすものでした。彼女は裁判官のところへ行きます。神をも畏れない者に彼女は何が期待できたでしょう。神はあらゆる正義と公平の源です。主は評判になど悩まされることはありません。やもめは裁判官のところへ行き、ガラガラと音を立てて扉を開け、自分の要求を主張します。もちろん裁判官は彼女を追い払いきることなどできずにいました。彼女が断固としているので、いつかきっと彼女に痛手を負わされるだろうと裁判官は恐れるに至ります。結局は彼女は彼をへたばらせます。これは、イエスが祈りによって根気強さを私たちにくださるということなのです。

このように、私たちに何ほどかを与えてくださいと神を説得するのではなく、あらゆる賜物の与え主である神を受け入れ、心を開いて準備するために、私たちは祈りつづけるのです。忍耐には神への信頼がこめられています。神がいないと思われる時でさえ神がおられることを実感する信仰を、祈りはもたらしてくれます。私たちに忘れられているときほど、神が私たちのすぐ近くにおられることはないのです。

（Beatrice）

年間第３０主日

「誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」（ルカ１８：１４）

主は「心の貧しい人々は幸いである」(マタイ５：3)と教えました。「心の貧しさ」はわかりにくい表現ですが、原文では「霊において貧しい」となっています。神以外頼るものがない状態をさしています。神以外に何者にも頼れない人が幸せだと言うのです。世間の常識とはずいぶん違います。今日の福音で主が語るたとえも同じようなことを表しています。

ファリサイ派の人と徴税人が祈るために神殿に上りました。ファリサイ派の人は「神様、私は他の人のように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、またこの徴税人のような者でもない事を感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を捧げています」と祈り、一方徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら「神様、罪人の私を憐れんでください」と祈りました。神から義とされたのは徴税人であったと主は言います。

ファリサイ人は自分が特別な人間であることを神に感謝しています。見せびらかすために人前でラッパを鳴らす(マタイ６：２)事はしていないものの、ずいぶん自惚れています。断食そして十分の一を全収入に適用している事から考えて、熱心であることは疑いようがないのですが、自分を義とし、他人と自分を比較し、恵みに対して感謝しません。

ここには当時の義人と罪人の考え方が背景にあります。律法を遵守する人が義人であり、律法を守らない人が罪人だとされていました。律法は神からモーセを通して与えられたもので、きわめて聖なるものであり、神に仕え、神を愛するにはどうしたらよいかは、すべて律法を研究することによってわかると考えられていました。イスラエルが贖われるのも律法によって示される神の意志に従うことによって早められるはずであり、だから律法を知らない群衆は呪われている（ヨハネ７：４９）とファリサイ派と律法学者たちは考えていました。

これに対し、主は「徴税人や娼婦たちのほうが、ファリサイ人、律法学者よりも先に神に国に入る」（マタイ２１：３２）と主張しました。神の国に入る人が義人なのですから、罪人であると軽蔑されている人たちの方が本当は義人だと主は言っています。今日の福音の徴税人から主の考えの根本がよく見えます。彼は自分が罪人であるという自覚を持ち、神の憐れみによりすがっています。こういう人が主の考える義人なのです。一方罪人とは自分を義とし、思い上がって傲慢になり、神の恵みに感謝しない人です。神殿で祈るファリサイ派の心の中の状態です。

遠くはなれて立ち、目を天に上げることさえしない徴税人は罪人であることを心の底から感じています。そして神の憐れみに頼る以外、自分を助ける方法を知りません。こういう心の貧しい人が幸いなのです。神の国は彼らのものだからです。私たちは心の貧しい者であるでしょうか。自分の心に問うてみましょう。

（新井）

年間第３１主日

今日、救いがこの家を訪れた

（ルカ１９：１－１０）

今日読まれる福音で、多くの徴税人の中でザアカイは一番の実力者であったことがわかります。彼はイエスを見たいと思っていましたが、沿道の群衆は彼に見るに良い場所を与えませんでした。彼は木に登り、そこへイエスが通りかかり見上げたのでした。繊細な感受性を持っていたので、彼は心やすらいでいました。イエスは言います。“ザアカイ、急いで。今夜、私はあなたの家に泊まらなければ。” 罪は決して人を幸福にはしません。彼の良心は、彼自身をひどく責めさいなむ人にしていました。彼にはもう改心する準備ができていました。イエスとの出会いがザアカイを解き放ち、自尊心を取り戻させたのでした。

イエスとの出会いは、何か表現しがたい経験を人々に与えます。それは人生をまったく変えてしまえるものです。ザアカイの家でのイエスの滞在は、彼の人生を完全に変えてしまうほどのものでした。彼は貧しい人に財産の半分を施すときっぱり宣言します。莫大な額の徴税人であった一金をゆすりとる仕事についていた一ザアカイは、イエスに魅入られ、彼自身のうち永遠の命へと導く宝を見いだしたのです。

ザアカイの体験が私たち一人ひとりに熱く訴えかけるのは、痛みを伴わない改心あるいは転向は改心でも何でもないということです。“改心は愛、神と魂との間にはたらく愛です”とマザーテレサは言っています。ザアカイの人生において生じたような真の改心とは、古い自分を脱ぎ捨ててキリストを身に帯びることを求めます。それは最終的には私たちが自らの臆病さに勝ち、真に神の面前でまみえる者となれるよう手助けしてくれるのです。

救いはすべての人にもたらされえますが、それは与えられる贈りものではありません。それは私たちが神とふさわしい関わりを持つとき、私たちのものとなるのです。

（Beatrice）

断想　（195）

失敗と成功

人生は　失敗の連続
しかし　失敗は
成功のもととか

といっても
成功を　誇ることは
救いなき　失敗

あぁ　主なる神
すべてにおいて
わが愚かさを
現　したまえ

奥　村　一　郎

ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』(70)

人との間にある溝に橋を架けること

隣人となるということは、人との間にある溝に橋をかけることです。私たちの間に距離があり、お互いの目をのぞきこむことができないかぎり、あらゆる種類の誤った考えやイメージがわき上がってきます。私たちは、彼らの悪口を言い、からかいの種とし、偏見で覆い、直接的接触を避けます。私たちは、彼らを敵と見なすようになります。私たちが愛するように彼らも愛すること、私たちが子供の面倒を見るように彼らも子供の面倒を見ること、私たちが病気になり死ぬように彼らも病気になり死ぬことを忘れてしまいます。私たちは、彼らが私たちの兄弟姉妹であることを忘れ、彼らを思いのままに破壊できる物のように取り扱うのです。

私たちが道を隔てた彼らの方へと渡り、お互いの目をのぞきこむ勇気を持つ時にのみ、私たちはみな、同じ神の子供であり、同じ人類家族の一員であることを理解することができるのです。（０６２２）

お互いを隔てている道を渡ること

私たちがお互いを隔てている道を渡ることをいとわない時、私たちはお互いの隣人となるのです。多くの分離と差別があります。黒人と白人の間に、ゲイとそうでない人々との間に、病気の人と健康な人との間に、囚人と自由な人の間に、ユダヤ人と異邦人の間に、回教徒とキリスト教徒の間に、プロテスタントとカトリックの間に、ギリシャ・カトリックとローマ・カトリックの間に。

渡るべき道がたくさんあります。私たちはみな、自分自身のことで非常に忙しくしています。私たちには訪ねるべき、自分にとって大切な人々がおり、片づけなければならない自分の仕事があります。けれども、私たちが時々、私たちを隔てている道を渡るならば、また道の向こう側で何が起こりつつあるかに注意を向けるならば、私たちは、本当に彼らの隣人となるでしょう。（０６２１）

九里（くのり）　彰訳

カトリック　☆★　アラカルト　★☆（１３）

嶋崎　浩樹（カルメル会）

≪ゆるしの秘跡≫（２）

ゆるしの秘跡の構造を今回から見てみたいと思います。

①自分の罪に気づくように聖霊の助けを願う祈り

②良心の糾明

自分のそれまでの歩みを思い返し、どのような罪を犯したのか、また、神様から離れようとしたのかを見極めます。その時には、罪を拾い上げるのではなく、なぜ罪を犯したのか、なぜ神様から離れてしまったのかという状況を見つめることが大切です。なぜなら、罪をいくらあげても、その原因となるものがわからなければ、心を改めていくことはできず、何度でも同じことを繰り返してしまうことになるからです。また、罪だけにこだわるのではなく、自分の犯した過ち、人間的弱さをも含めて見つめることが大切です。そして、もう一つ付け加えておかなければならないのは、自分のことだけを考えるのではなくて、人との関わり、共同体との関わりにおいて、自分はどうだったのか、相手の立場、気持ちに立って見直し、たとえ自分が良いと思ってやったことでも、周りの人にとって迷惑がかかっているならば、それもゆるしの秘跡の時に告白するようにしたらいいでしょう。

この時に避けなければならないことは、神様は何でもゆるされるからどうでもいい態度をとるのではなく、なんとしてでも次からは、罪の傾向を避けたいという態度をとらないといけないでしょう。また、あまりにも小心になりすぎて、何でもかんでも罪だと思わないことも大切です。一種の脅迫神経症的にならないことです。

③悔い改め（痛悔）

これは、ゆるしの秘跡の中でも大切なところです。神様にこんなに愛されているのに、その神様の愛に応えることができなかったことを悔やみ、心の底から神様に立ち返ろうとすることです。そして、二度と同じ過ちを繰り返さないように、自分の罪の根源となっているものは何かを見つめてみることです。ですから、じっくりと時間をかけて罪のことだけを思い返すのではなく、自分が今まで生きてきた人生の全てを振り返ってその罪の傾向、原因をつかんでいくと、より一層人間として完成されたものとなっていくでしょう。そして、罪の傾向、原因を考えることによって、罪を避けることにもなっていくことでしょう。

URL:http://www.geocities.jp/hs_ocd/　e-mail:pax@inter7.jp

裸の王様

アンデルセンの童話に、「裸の王様」という物語があります。多くの方はすでにご存知とは思いますが、念のために中身をご紹介いたします。

ある国に偉い王様がいました。王様は「世界中で、自分程えらい人間は他にはいない」という自負のもとに、王宮内では勿論、下は国民に対しても自分の上に出る立派な人物はいないだろう、と威張りちらしていました。そんな王様の近くにいる人々は、たまったものではありません。卑しい人間、貧しい人間、知識も学問もない虫けらのような人間として見下げられ、もし王様に反抗しようものなら、直ちに殺されてしまいそうな勢いでした。そんなある時、二人の織物師が御前に呼ばれ、「王の威厳を十二分にあらわすようなガウンを仕立てるように」と命じられました。この二人の織物師も、かねがね王様のご乱行に反抗心を抱いていましたので、「好機至れり」とばかり、快く命令を引き受けました。わざわざガウンを織るように見せかけて機織機に糸を仕掛けず、織っているフリをしながら、外目には見えない世界一素晴らしいガウンが出来たとして、王様に差し上げたのです。王様は何の感触もないヘンなガウンと思ったのですが、二人の機織師を信じて、早速ガウンを着て町の大通りをねり歩くことにしました。これを聞いた群衆は、その素晴らしさを一目見たいと、黒山のような人垣をつくって行列を待っていたのですが、いよいよ現れた王様を見た途端、皆思わず「アッ」と驚きの声を出すところでした。あの威張っている王様が、何と素裸で偉そうに大通りを闊歩しているではありませんか。

この童話は、単に人を笑いにさそうのが狙いではなく、人間の「生き方」を考えさせてくれるものだと思います。私にとっては信仰生活の年を重ねるごとに、この童話の深さが身に沁みてくるのでした。

① 人間は、神とは比較にならない被造物の範疇に属しているのに、同じ人間同志の間で相手を見下ろし、威張りたい習性をもっています。中身はお互い五分五分で大したものでない、ということに気がつかないままに。

② そのように生きると、自分の意識には上がらないけれど、他人と比較する傾向が出てくる。〇〇が気になる　とか、何となく心が晴れない　とか、「穏やかに今を生きる」という感覚が逃げ出してしまっているのに気がつかない、

とか。

③　そうなると、人間同志から流れてくる苦しみを体験することは必至。世界平和の到来もさることながら、肝心の自分の心中に、真の平和が存在しない。周囲や環境の中におかれながら、漂(ただよ)う小舟のように自分でしっかりと進むことが出来なくなるなど……

だから父なる神は、この世におん子イエス・キリストを送って下さったのです。イエス・キリストは、神であるのにへり下って人間になり、人間をやって下さったのでした。(show ショーではなく)
ですからイエス・キリストの存在には、この「裸の王様」とまるで１８０度の相違があります。その素朴な誕生、環境、状況、(例えばヘロデの迫害、目立たない平凡な聖家族の生活など) 公生活に於ける教えと奇跡は、すべて人間を神に向かわせるためなのに、人々から受容されず、多くの受難を受けられたのでした。そしてその受難の最後には徹底的に自分に死ぬ、という十字架の死に立ち向かわれたのです。

イエス・キリストはまことの意味で「裸の王様」だったのです。

それはイエスの死を目前にして、開眼した人だけに見えたもの　だったのです。

「まことに　この人は神の子であった」　マルコ１５．３９
マタイ２７．５４

「このかたは、まことに正しい人であった」　ルカ　２３．４７

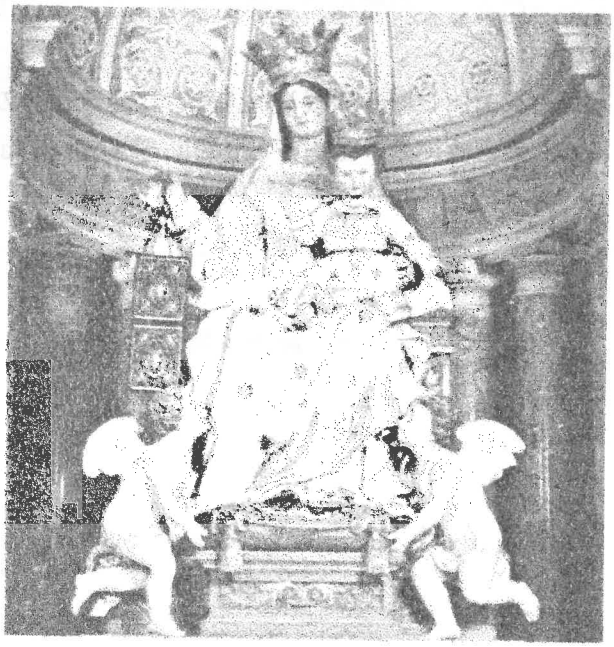
Ｓｒ．熊田　照子（お告げのフランシスコ姉妹会）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

5. マントゥアの福者バプティスト・スパニョリ (1447-1516.) ——その2

1447年4月17日、聖母を真に愛する学者詩人がマントゥアに誕生した。彼は、大きな祈りの深みに鼓吹された詩作の数々によって、その名を世に知られることとなった。生涯中、彼は55,000行以上もの詩を書いている。若くしてカルメル会に入会し、副総長を6度務めた。1513年、会全体の総長に選出されたバプティスト神父は、教皇とその側近に説教するために招待されたこともあった。この著名な詩人は1516年3月20日にマントゥアで亡くなったが、その作品は今も生き続けている。



カルメル山の聖母像

―― 祈り ――

いと幸いなる乙女マリアへの嘆願の祈り

世界の栄光、天の元后、全能なる神の御母、人類のよりどころ、
　逆境の中で私たちを慰めてくださるそよ風よ、
自らの罪を思い起こすとき、
私はあなたの御前でお話し申し上げることを恥ずかしく思います。
あなたは、いかなる汚れも持っておられないのですから。
鍛冶屋が燃え盛る火の中に十回差し出して熱した金よりも
　あなたは明るく輝いておられます。
それなのに、私は、なめつくすように地獄から押し寄せる波のいけにえになり、
私の肢体は、地獄の泥でけがれています。
けれども、あなたの御心のいつくしみを思い起こすたびに、
　そのような恥ずべきことから生じる苦しみは、少しばかり軽減されます。
希望が、私の心に、あなたが慈悲深く優しい方であることを確信させてくれます。
あなたの御助けが私たちに与えられることを約束してくれます。
ですから、私の汚れを見ても、うんざりなさらないでください。
いつも、御子の前でご好意をお与えください。
心を汚し、間違った行いに走らせる地上のものに喜びを求めようとする私の五感を
　鎮めてください。
天国の栄養が、私たちの唇に味わいをもたらすようにしてください。
神の愛が私の心を貫くようにしてください。
怒りが悪霊を捕らえてしまうときにも、
地上のことがらを見下し、地獄を征服できるように助けてください。
人生の危機的な瞬間に、私の導き手であってください。
いかなる手も、体において私を攻撃することがないようにしてください。
あなたの御保護のもとで、私が天の国に戻ることをゆるされますように。
くびきを打ち砕いて、誓願をあなたに捧げることができますように。
あなたのとりなしによって、どのような困難においても
御子が私と私の家を支配してくださいますように。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ http://www.ignatius.com) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

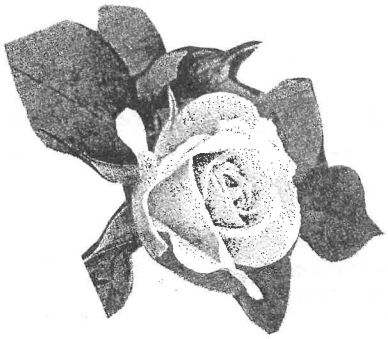
（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列 17:3-4）」ということばに由来しています。

（浜田裕子訳・編）

光の繭

蛭田　幼一

この歪んだ心、傷んだ胸を、抱きしめておくれ、光の繭よ。許されるために許すのだから。クリーム色の建物を、蕩かすように光が包む。樹々の葉末が燦いて爆ぜる。雲も光の旗手となる。橋を渡り、川に沿って歩くことを、どんな刺も妨げない。心の鏡のような、重い、鈍い水面には、ボラの群れが泳いでいる。いつか光の繭の中で、栄光の似姿に変えられるまで、風は思いのままに吹く。……抱きしめておくれ、光の繭よ。



いちじく（2）

加藤 幸子

人間の身体を見てみよう。酸素を供給する動脈と、老廃物を運ぶ静脈。交換神経と、副交感神経。吸う息、吐く息。全く正反対の働きが、お互いに調和しあっている世界だ。人間の意識はどうだろうか。「善人」は「悪人」を裁き、美しいものは汚いものを排除し、「生」は「死」を忌み嫌う二元的世界である。この二元的世界から一元的世界へ飛躍することは、人間の自助努力では、絶対に不可能だ。絶対相矛盾したものが同時に両立するのである！

ナタナエルはいちじくの木の下にいた。これは、彼が、一元的世界へ連れ出してくれる救世主を待ち望みながらも、二元的世界で迷い、苦しんでいたということではないだろうか。イエスに、自分の意識の奥の奥を突かれ、参りました、という訳だ。

エレミア２４章の「良いいちじくと悪いいちじく」の箇所。「悪いいちじくの実」とは何だろうか。私たち人間は、自分のことをいい人だと思っている。一人残らず。たとえ殺人を犯してしまったとしても、自分は本質的には善人だ、と思っている。人を殺すようなはめになったのは、あいつが私を追い詰めたせい、会社が私を冷酷に扱ったせい、すぐそばに包丁が置いてあったせい、私はいわば被害者。法律に反するような罪を犯さず、むしろ、世間的には篤志家で通っている人はもちろんのこと！まあ、しかしそんな人に限って、「いえいえ、私のような罪人はございませんよ」と頭の下がるようなことをおっしゃる。しかし、そのことばは世間様へのパフォーマンス！本当に自分の罪深さを知らされていたら、トコロテンがスルっと、それをつくる道具から押し出されてくるように「私って罪人」などという風には言えないものだ。

「悪いいちじく」とは、最初の動機においては、純粋に隣人を助けようと心で思い、祈り、実行に移す私たちが、していく過程において、いかに不純な思惑が入るか、囚われが、偏見が、相対的な正義感が邪魔し、最終段階（つまり、神様のもとに届く時）においてはまずくて食べられない実になっている、ということだ。だからといって、隣人を助けるな、善行に励むなということではない。なにか人助けをした時、あるいは教会の内外で福祉活動に参加した時、自分の行為に酔いしれるのではなく、襟を正して、しっかり自分の心の動きをみつめなさい、と主は言っておられるのだ。

エレミア２４章５節に、ユダの捕囚民を神が「良いいちじくのようにみなして」とある。つまり、私たちの自力善行では、決して主が本当に望んでおられる良い実をつけることなど不可能なので、主のご好意によって「良い実」とみなすということだ。それは、人間が知性に訴えることを辞めた時なのだ。

いのちの言葉

２００４年９月

自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。
（ルカ 14・33）

このように要求度が高く全面的な言葉には、ハッとさせられますが、これは、特定の人々に向けられたものではありません。あらゆる所に福音を告げ知らせに行くため、自由の身でいるべき宣教師や修道者などに限られてはいないのです。また迫害の時代に、イエスの弟子たちは神に忠実であるため、富に限らず生命までも捧げるよう求められましたが、このみ言葉は、そうした特別な時期だけにあてはまるのでもありません。イエスはすべての人にこう語っておられます。そして、私たち皆がそれにこたえることができます。

これは、イエスに従うための条件の一つです。この条件について、ルカは福音書の中で何度も語っています。「自分の持ち物を売り払って施しなさい。…あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ。」[1]「どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。…あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」[2]「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」[3]

自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。

なぜイエスは、富から執着を断つよう強く求め、これをご自分に従うための不可欠な条件とまでされたのでしょうか。

私たちの人生における第一の富、真の宝は、イエスご自身だからです！ 「持ち物」は“偶像”のように、私たちの内で神が占めるべき場所を奪い取る可能性があるので、それらをすべて一度わきに置くようにと、イエスは言われます。

あらゆる執着や心配が魂から一掃され、私たちが自由になることを、イエスはお望みです。そうしてこそ、私たちは心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、イエスを愛することができるからです。富は生きるために必要ではありますが、執着なしに用いるべきものでしょう。何かが私たちの心の中で第一の場所を占めてしまうなら、それをすべて移動させる覚悟を持ちましょう。イエスに従う人の心には、貪欲や富への愛着のため、また便利さや安定を過度に追求するための余地は、ないはずです。

イエスが富を後にするよう求めるもう一つの理由は、私たちが他の人に心を開き、隣人を自分と同じように愛するよう、望んでおられるからです。自分の富を与えることは、結局私たち自身にとって善となります。イエスの弟子であるなら、強欲であったり、貧しい人に心を閉ざすことはできないはずです。

自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。

では、この「いのちの言葉」をどのように生きればいいでしょうか。

「持ち物を捨てる」ための最も簡単な方法は、「与える」ことです。

私たちは神を愛し、神のみ心をいつも果たす覚悟を持ちながら、自分の人生を神がお望みのままに使ってくださるよう捧げ、与えることができます。

そして神への愛を示すため、私たちは兄弟姉妹を愛し、彼らのために何でもする心構えを持ちましょう。意識していないかもしれませんが、私たちは他の人に分かち合える多くの富を持っているのです。心の中の愛情や思いやりを与えるこ

---

[1] ルカ 12・33 - 34
[2] ルカ 16・13
[3] ルカ 18・24

とができ、喜びがあるならそれも分かち合うことができます。自分の時間、祈り、内面的な豊かさも提供できますし、本や洋服、車やお金などを分かち合える場合もあるでしょう。「もしかしたら、これは、こういう時やああいう時に役に立つかもしれない」などと、あまり考え込まないようにしましょう。確かにすべてが役に立つでしょうが、そのような思いに引きずられていると、いつしか私たちの心には多くの執着が忍び込み、さらに新しいものが欲しくなったりするからです。そうではなく、必要なものだけを持つよう努めましょう。貯め込んだお金や、なくてもよいもののために、イエスを失ってしまわないよう、気をつけたいものです。

自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。

私たちには、「すべて」を失うゆえに見いだせる「すべて」があります。それは、失ったものとは比べられないほど、貴いものです。ですから最終的に利を得るのは、私たち自身であることを信じましょう。私たちは自分が与えた多くの、またはわずかなものと引き替えに、豊かな喜びを得、満ち満ちた神との一致を受けるからです。こうして私たちは、イエスの真の弟子となれるでしょう。

一杯の水を与える人にも報いがあるなら、兄弟姉妹の内におられる神のために何でも与える人には、どれほどの報いがあることでしょう。

「いのちの言葉」を共に生きる人たちからは、私のもとに絶えず多くの体験談が寄せられますが、そのうちの一つを取り上げるだけでも、先のことを証しできると思います。

ベネズエラのカラカスに住むある人が、仕事を失いました。彼は一家の父親でしたが、失業して二週間後、今度は重い病に倒れ、さらに車が盗難に遭いました。こうして彼と家族は、非常に難しい時期を迎え、家賃が払えないのでアパートも出なければならなくなりました。

ちょうどその頃、彼らの一人の友人は、「神の愛にもっと全面的にこたえ、すべてを共有していた初代キリスト者に倣ってみ言葉を生きたい」と強く心に感じました。

その晩、彼は自分の望みを妻に打ち明け、二人は、困っている友人家族に、自分たちの家の一部を提供する決心をしました。彼ら自身も貧しかったのですが、だからといって、友人家族に路上生活をさせてはならないと思ったのです。ただし、彼らの家自体が、資金不足のため未完成の状態にありました……。

ところが話をした翌日、二人のもとには、予期せぬ経済援助が届きました。それは建築費の不足分をまかなえる金額でした。

キアラ・ルービック

★いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

職場で人事異動と新企画が重なり、私にも、いくつか新しい仕事が割り当てられました。きめられた時間内に仕事をおぼえていくために、息をつく暇もない状況でしたが、ある同僚から「担当している企画に提案があれば出してほしい」との依頼がありました。その時「時間がとれるだろうか、他の人が何か出してくれるだろう」と思って、そのままにしていました。でも心の中で、「自分に余裕がある時、他の人のためにしてあげることは、簡単だけれど、自分のことで精一杯の時こそ、相手のために必要なことをしてあげるなら、それこそ本当の愛ではないのか」という声が響くのを感じました。そこで、自分の仕事をわきに置いて、同僚のための提案を書き上げてメールで送ったところ、とても喜んでくれました。(M)

フォコラーレ
連絡先:03-3332-8460/03-3399-5508
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
いのちの言葉のホームページ
http://www.geocities.jp/focolarejapan

Ti incontrai per caso, qunado mi accompagnasti verso i segreti della vita.
E il tuo nome era Bellezza.

偶然にも僕は君に出会った、人生の神秘へと僕を導いていってくれた時に。
そして君の名前は「美」といった。

マルコ・マッフェッツォーリ （「美のアフォリズム」から）

◇作者プロフィール （当誌四月号に詳細）

< **Marco Maffezzoli** (1971-1998) >

マルコ・マッフェッツォーリ、1971年6月8日イタリアのマントヴァに生まれる。 1998年10月8日、自動車事故に遭い、脳死と判定され、「息子がここで口を利けたなら、きっとイエスと言うだろう」と、ご家族は臓器提供を決断。２日後の10月10日、心臓・肝臓・腎臓・角膜が６人の人に無事移植された。

◇出典

『 Lungomare di comete 』出版社 Edizioni il Dialogo 、１９９９ Mantova

◇翻訳と紹介

< 浅野　菜生子 >

東京生まれ。ピアニスト。オペラ・声楽・オーケストラの仕事を中心として、日本及びイタリアで活動している。２００３年の復活祭に受洗。
洗礼名 Viviana（ヴィヴィアーナ)。

カルメル会の企画案内

東　京

カルメル修道会　と　聖テレジア修道院（黙想）

2004年4月～2005年3月までの黙想会予定表

1．　聖　書　深　読　（毎回土曜日　夕食～日曜日　１６時）

11月２７日～２８日・・九里彰師

'05/３月１９日～２０日・・奥村一郎師

2．　奉献生活者のための黙想会

１２月２７日（月）１６時　～１月５日（水）朝・・・九里彰師

3．　カルメルの聖人を見つめ霊性を深める

（毎回水曜日　１０時～１６時）・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア	B・・・十字架の聖ヨハネ
	１１月２４日
１２月１日	１月１９日
２月１６日	３月　２日

4．　青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

１１月６日（土）１６時～７日（日）１６時

5．　召　命　黙　想　会（男女）・・・九里彰師・原修士

１０月２９日（金）１７時～３１日（日）１６時

6．　大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後３時から。（講話なし）　チェックアウト午前１０時まで

クリスマス　　１２月２４日（金）夕食なし～２５日（土）朝食あり

復　活　祭　'05/　３月２６日（土）夕食～２７日（日）朝食

聖週間を黙想する '05/　３月２４日（木）夕食～２７日（日）朝食

7．特　別　黙　想　会

最初の日の夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

１０月２５日（月）２０時～２７日（水）１５時　新井延和師

１１月１９日（金）２０時～２１日（日）１５時　Sr.伊従信子

東　京

8．待　降　節　黙　想　会　　チプリアノ師
　　12月3日（金）夕食　～　5日（日）15時

＊　電話でのお問い合わせは　午前9時～午後4時45分までにお願いします。
また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくＦＡＸ・はがき・Ｅメールでお願いします。（お返事は致します）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）担当　br 原
TEL　03-5706-7355
FAX　03-3704-1764
Eメール　mokusou@carmel-monastery. Jp

東京カルメル在俗者会　黙想会

場　所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日　程
　　10月14日（木）夕食～17日（日）　指導：中川博道神父
　　11月　9日（火）夕食～12日（金）　指導：九里　彰神父

☆　空きがある場合には、一般の方でも参加可能です。
　　お申し込み・問い合わせは下記まで。
　　TEL／FAX　03-3892-1378　　阿部　昌子

カルメルの霊性研究クラス

＊十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」
　１０月６日、１０月２７日、１１月１７日、１２月８日、１２月２２日。
（１０月６日は、第３部第３６章～第４２章を読みます。）
＊　アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」
　１０月１３日、１１月４日(木)、１２月２日（木)、１２月１５日。
（１０月１３日は、第３２章を読みます。）
どちらも水曜日、夜７：００より、上野毛教会信徒会館２階２６号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

祈りの集い

１０月２８日（木)、１１月２６日、１２月１７日
10月は都合により木曜日に変更しました。
毎月一回金曜日の夜７：００より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。
７：００～８：００　み言葉と念祷
８：００～８：３０　分かち合い（茶話会）

[霊性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの霊性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里（くのり）　彰神父

東　京

召命黙想会

「恐れるな！
今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」

日時：　１０月２９日（金）１７時受付開始１８時夕食～３１日（日）16時
場所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
　　東急大井町線　「上野毛」下車徒歩７分
対象：　召命を考えている独身青年男女
定員：　20名
スタッフ：九里（くのり）　彰神父、原　造修道士
申し込み連絡先：　〒158-0093　東京都世田谷区上野毛２－14－25
　TEL　（03）5706－7355
　FAX　（03）3704－1764
　E-mail　mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

カルメル会聖テレジア修道院企画

特別黙想会

《　希　　望　》

☆　10月25日（月）20時　～　27日（水）15時まで

指導司祭：新井延和師（カルメル会）

《　テレーズとともに祈る　》

☆　11月19日（金）20時　～　21日（日）15時まで

指導：Sr 伊従信子（ノートルダム　ド　ヴィ）

当日は20時から始まりますので夕食を済ませてお越しください。
持参するもの・筆記用具、パジャマ
参加費：￥12,000（当日持参）

お申し込み　お問い合わせ
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
Tel　03-5706-7355　Fax　03-3704-1764
E-メール　mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

青年男女のための黙想会

祈りを生きる

ーキリストの神秘体の中でー

日時：11月6日（土）16時～7日（日）16時
場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）（東急大井町線上野毛駅より徒歩 5分）
対象：高校生以上の青年男女（35歳まで）
定員：20名
指導：九里彰師・神学生
費用：5,500円

参加ご希望の方は、ハガキ・FAX・Eメールで住所・氏名・電話番号・年齢をご記入の上、10月30日（土）（必着）までに、下記までお申し込み下さい。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

（お問い合わせ及びお申し込み先）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
TEL　(03) 5706-7355
FAX　(03) 3704-1764
E-mail mokusou@carmel-monastery.jp

京　都

２００４年　黙　想　会　案　内　（宇治カルメル会）

聖書深読　（土曜日午後５時集合/日曜日午後４時解散）

１０月３０日～３１日　中川博道神父
１１月２０日～２１日　九里彰神父
１２月１１日～１２日　奥村一郎神父

青年男女黙想会

１０月１７日（日）午前１０時～午後５時　カルメル会士・カルメル宣教会

水曜一般黙想会（午前１０時～午後４時まで）

１０月１３日　アビラの聖テレジア・・・・Ｓｒ.ベアトリス
１１月１７日　諸聖人の通功・・・・・・・長岡幸一神父
１２月１５日　十字架の聖ヨハネ・・・・・奥村一郎神父

奉献生活者のための黙想会

１０月１８日（月）～１０月２７日（水）・・・福田正範神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016　FAX　0774-32-7457

名古屋

「立ちとまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（2004）

この会は現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神さまとの静かなひと時を過ごすために企画しました。イエス様は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28：20）といわれました。
共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみてはいかがでしょうか。
若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、
イエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第9回　10月11日（月）　「神の家族」　松田浩一神父
第10回　11月23日（火）　「わたしたちの使命」　九里彰神父
＊　時間　いずれもAM10：00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会（地下鉄・名城線、日比野駅下車2番出口徒歩5分
（駐車場は利用できません）
＊　費用　1，000円
＊　持ってくるもの　聖書・筆記用具・ロザリオ・昼食の弁当
＊　定員　約15名

プログラム

10：00　祈り
10：45　講話1
12：00～12：45　昼食
12：45～　ゆるしの秘跡または短い面接
13：30～講話2
14：45～ミサ
15：30～茶話会

・　また空いている時間にゆるしの秘跡、短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。なお、日比野教会で葬儀などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062　名古屋市熱田区大宝4-5-17
カルメル会日比野修道院　一日静修係（担当松田浩一神父）
FAX052-671-1825　お問合せTEL052-671-1003

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

３　京　都・・・１０月　９日（土）　奥村一郎神父
　　１１月１３日（土）　新井延和神父
　　１２月　９日（木）　奥村　豊神父
　場　所：河原町カトリック会館６階　　費　用：各回 2,500 円
　時　間：午前１０時～午後４時　　持参品：聖書・筆記用具・ノート
　申し込み・問い合わせ
　　〒604-8006　京都市中京区河原町通三条上ル
　　河原町カトリック会館内　聖書委員会
　　ＴＥＬ：075-211-3484　　ＦＡＸ：075-211-3910

４　名古屋・・・１０月２日（土）～３日（日）宇治カルメル黙想の家　奥村一郎神父
　　１１月６日（土）　　日比野カトリック教会　中川博道神父
　毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
　原則として、定員 21 名とし、申し込みはファックス、葉書でお願いします。
　コースは深読法を集中的に行う１日コースと、全行程を行う１泊２日コースがあります。
　対象は信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方でしたらどなたでもご参加下さい。
　　連絡先：〒465-0058　名古屋市名東区貴船 3-2115　小林 厚
　　TEL/FAX　052-701-3685

５　横　浜
　１泊２日コース
　11 月１７日（水）～１８日（木）　裾野修道院（裾野・桃園）　　奥村一郎師

　時間　一日目　13 時 30 分～２日目　16 時まで
　なお上記のように 11 月のコースは日付け・場所が変わりました。

　連絡責任者　　蜜本昌俊　TEL・FAX　045-621-5838

お知らせ

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 17,900 円（4、7、10、１月に納入）　継続の場合は 15,950 円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2　有光信子

参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはいないので、コメントや解読はない。

費用：１回 300 円　　年 10 回 3,000 円

送り先：〒663-8033　西宮市高木東町 31-20-505　　有光信子

ＴＥＬ／ＦＡＸ　0798-67-8132

3　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒベアトリスまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

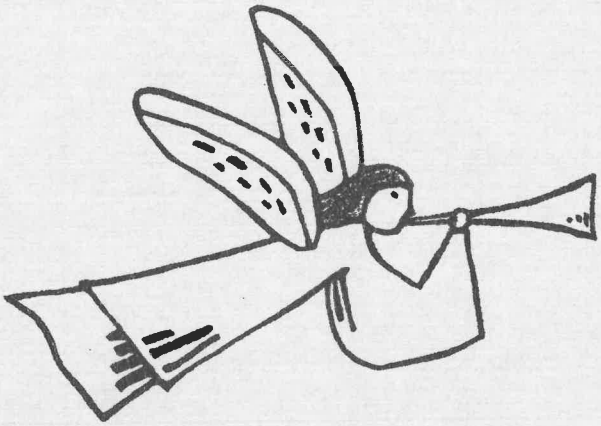
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒベアトリス

ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543

Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



1．コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院
2．ＣＷＣ．（キリスト者婦人の集い）
3．真命山の霊性
4．三位一体の聖体宣教女会
5．マリアの御心会
6．心のいほり
7．風の家
8．スズランハウス
9．聖心会裾野修道院
10．ノートルダム・ド・ヴィ

諸所の企画紹介

＊　コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

場所：東京都調布市下石原３－５５－１

TEL:0424-82-2012　・　FAX: 0424-82-2163

一日黙想会・テーマ「イエスのみ心を味わう」

日時：２００４年１０月１７日（日）１０：００～１６：００

場所：ノートルダム調布修道院

指導者：千原通明神父（イエズス．マリアのみ心会）

対象：２０代３０代の未婚女性（参加費：10000 円、聖書、筆記具持参）

＊　申し込み締切り：１０月１６日（土）

担当：Ｓｒ池田洋子・Ｓｒ山本三千子

＋　当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。　南口から徒歩２０分
タクシーで５分。下石原３丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です

＊　ＣＷＣ　（キリスト者婦人の集い）　講師：九里　彰　神父（カルメル会）

テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程　：２００４，１０／１２（火）　１２／１４（火）

時間：午前１０：３０～１２：００

会場：真生会館第一会議室

これまでのテーマは「アブラハムの２人の妻」「マルタとマリア」「ベタニアの女」「サマリアの女」「マリアの受胎告知」でした。

＊　真命山　の　霊性　　〒865-0133　熊本県玉名郡菊水町蜻浦１３９１－７

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

申し込み：TEL.0968-85-3200;Fax.0968-85-3186

２００４年度　　e-mail:shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

祈りの集い：テーマ・聖人の祈りに学ぶ

１０／１４（木）　アビラの聖テレジア

１１／１１（木）　福者三位一体のエリザベット

１２／９　（木）　十字架の聖ヨハネ

第６回　署宗教平和の祈りの会

１０／３（日）　１４：００～１７：００

＊：尚、個人、グループで黙想会、研究会などできますので、ご相談下さい。宿泊は１０名ぐらい迄可能です。

＊　リーゼンフーバー講座・集い・研究会の　案内

キリスト教　金曜日１８時４５分～２０時３０分　聖イグナチオ教会信徒会館
入門講座　　アルペホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本
　　テーマを致します。

キリスト教：毎月第一・第二火曜日１８時４０分～２０時３０分
　理解講座：　聖イグナチオ教会アルペホール。キリスト教の基礎知識
　　のある方。（２年間コース）信仰理解と信仰生活の深まり
　　を目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会：木曜日１２時４０分～１３時２５分上智大学７号館３１６号研究
　　室、学生のどなたでも。新約聖書を１章づつ読んで話し合います

座禅会：　月曜日　17時20分～20時10分　＊　木曜日18時20分～20時30分
　　どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心　：　2004.10/29（金)20:30～11/3日（水)14 時　秋川神冥窟（一泊2400）
　　2005.2/26　(土)8:30　～27日（日）16時　上石神井　（5400）
　　5/29　(土)13:～30日（日）16時　　宝塚市
　　7/31　(土)17:30～8/6(金）13時

黙　想：毎月第２．第４火曜日18:45 － 20:00：　イグナチオ聖マリア聖堂
　　水曜日 18:00～18:30　：　上智大学内クルトゥルハイム一階右
　　小聖堂　　どなたでも

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00　場　所：S.J.ハウス第５会議室
　　講話、黙想、ミサがあります。
　　10/16.11/13.12/11. ＊ 2005.1/8.2/19.3/19

黙想会：　11/27.(土）10:00 ～11/28 日（日）15:00　（１泊4400円）

アガペ会：　説明会と集い・下記の日　１３時３０分～（20代～40代の信者）
　　10/9.(土）　2005.1/22(土）：Ｓ．Ｊ．ハウス第５会議室

クリスマス会：12/18　(土）16：30～上智会館５階第６会議室　要申し込み
　　12/23　(火）14:00 ～上智大学内クルトゥルハイム聖堂

会社帰りの黙想：毎月第２．第４火曜日　１８：４５～２０：００
　　聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）

＊　以上、問い合わせ・連絡先　：クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
直通電話 03-3238-5124 、 5111(伝言）、FAX,03-3238-5056

＊　三位一体の聖体宣教女会　東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：２００４年～２００５年

「聖書で祈る」：　指導：雨宮　慧　（東京教区司祭）対象：一般信徒

１１月２７日（土）５：３０～２８日（日）４：００

２００５．２月２６日（土）５：３０～２７（日）４：００

祈りの集い：神が下さる私の道　指導：星野正道（司祭）対象：男女青年信徒

１１月２７日（日）を　１１月１９日（土）に変更

時間：１０：００～４：００

２００５．２月８日（土）１０：００～４：００

黙想会：指導：星野正道（司祭）　＊対象：一般信徒（お弁当持参）

１１月１９日（金）１０：００～４：００

２００５．２月４日（金）１０：００～４：００

＊＊＊＊＊＊＊

キリスト教講座　カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日　10:00am ～11:30am

十字架の使徒職の集い　＊対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第１グループ　毎月第２金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第２グループ　毎月第１木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ＊司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm～200Pm）

＊　マリアの御心会

場　所：〒160-0012　東京都新宿区南元町６－２

ＪＲ信濃町駅下車徒歩２分

問い合わせ・申し込み：TLE.03-3351-0297　：FAX.03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」　結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

２００４年度	（テーマ）	指導者
１０／２４（日）	マリアの７つのことば	ヌエル・エルナンデス師
１１／２８（日）	霊の識別	ティエリ・ｊ・ロボアム師
１２／１９（日）	星に導かれて	ジャン・クロード・ホレリッヒ師
２００５年度		
１／２３（日）	聖体に現存するキリスト	森　一弘司教
２／２０（日）	わたしの内に、巣くう社会の歪み	下川雅嗣師
３／２０（日）	毎日の生活の中に神を探す	加藤信也師

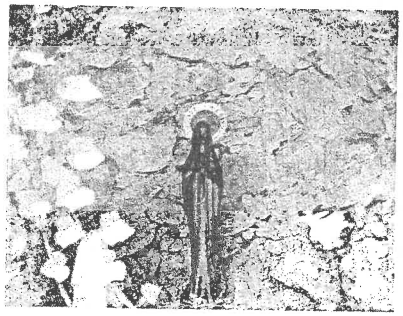
＊　『心のいほり』
内観瞑想センター』代表　藤原直達神父　（大阪教区司祭）
〒５７２－０００１　大阪府寝屋川成田東町３－２７
TEL/FAX ０７２－８０２－５０２６　携帯　０９０－２４０１－９３７４
活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、
自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。
希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。
電話では取り次いでおりません。

２００４年度
１０／７（木）２時～１０／１３（水）２時まで　６泊７日　横浜・戸塚
１０／１７（日）２時～１０／２３（土）２時まで６泊７日　兵庫・宝塚売布
１１／７（日）２時～１１／１３（土）２時まで　６泊７日　京都・竜安寺
１１／２４（水）２時～１１／３０（火）２時まで６泊７日　横浜・戸塚
１２／１２（日）２時～１２／１８（土）２時まで６泊７日　兵庫・宝塚売布

２００５年度
１／１０（月）２時～１／１６（日）２時まで６泊７日　横浜・戸塚

＊　風　の　家　井上洋治神父　（東京教区司祭）
〒１６９－００４２　新宿区西早稲田３－１７－２３－９０３
TEL:０３－３２０４－４４５３
山根道公　機関誌　『風』　編集者
〒７００－０８０８　岡山市大和町１－１１－１７
TEL:FAX ０８６－２２７－５６６５

＊　スズランハウス　責任者・井口貴志
〒192-0041八王子市中野上町4-27-4・TEL.0426-28-3222
アルコール依存症、やせ症、摂食障害者とその家族のための施設。



聖心会裾野修道院　ヴィラ・フジ（黙想の家）

〒411－1126　静岡県裾野市桃園198

TEL: 055-992-2120　FAX:055-992-2165

聖書による個人指導黙想会

2005年1月26日（水）－2月4日（金）

ヘルパー：松本秀友師（京都教区）、Srs.　吹田真佐子、長谷川和子

申込先：〒108－0072　東京都港区白金4－11－1

聖心会レターレ修道院　Sr.吹田　真佐子

Tel:03-3446-1270　Fax:03-3441-0454

〒455－0872　名古屋師港区西蟹田1833

聖心会名古屋修道院　Sr. 長谷川　和子

Tel:052-302-4385　Fax: 052-309-1670

一般黙想会

テーマ：「自分探し」（2回とも参加できる方）

講師：近藤雅広神父（心のともしび運動）

① 2004年11月1日（月）午後1時より

11月3日（水）午後2時まで

② 2005年4月14日（木）午後1時より

4月16日（土）午後2時まで

参考：「私は誰ですか」（近藤雅広著　天使院刊）にもとづく講話形式の黙想会

申込先：Sr．長谷川　和子　（上記の連絡先）

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と
沈黙の祈りで構成された集いです。
カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

2004年後期

10月23日（土）　*祈り　－　泉への道*

11月27日（土）　*死　－　神との出会い*

12月18日（土）　*幼な子の道　－　無の道*

講話：伊従信子・片山はるひ　（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

午後2時より　講話　祈り　分かち合い　ミサ（翌・日曜日の典礼）

参加費：200円

場所：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５

（西部新宿線　武蔵関駅北口から徒歩10分、もしくは、上石神井駅北口から徒歩15分）

問い合わせ・申し込み：
Tel (03) 3594-2247　（電話は夕方6時から夜9時の間にお願いします）
Fax (03) 3594-2254　（Fax送信は何時でも結構です）
または郵便で、祈りの集い係りまで。

マリー・エウジェンヌ神父
（ノートルダム・ド・ヴィ 創立者）

カルメル会の霊性を受け継ぐ
ノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、
神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を
生きることを、その精神・理想としています。

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」2004年特集号

「本質的なことからの再出発」

福音の本質的なこと　ー現代日本の文脈の中で　…中川博通
現代日本におけるキリスト者の本質とは何か
ーキリストの弟子として生きる　…松田浩一
共同体の本質　ー過ぎ行く時の試練の中で残ってゆくもの　…大瀬高司
奉献生活の本質　ー愛の証しとしての奉献生活　…九里　彰
カルメルの本質　ー観想と神　…新井延和

雑誌「カルメル」No.314（2004年秋号）

「今日の霊性」

祈り（8）…チプリアノ・ボンタッキョ
十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」（3）　…九里　彰
カルメルの馨り（1）　ーカルメル日本宣教の根底史（1562－1951）　…大瀬高司
イエズス　私の最愛のお方　思い出してください(12)　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(6)…伊従信子
神の訪れ、喜びの輪の誕生　…高橋重幸
三位一体のエリザベット(7)　ー愛に生きる…伊従信子
巡礼者　ー心の旅　…ユージン・マッカーフリー
ガラスの心と柔らかな心と　…森　みさ
出会いー修道生活きのうきょうー(8)…奥村一郎

＊年５冊（春夏秋冬号＋特集号）会員頒布価格：3000円（送料込み）
郵便振替：００１９０－４－１９５４５７
跣足カルメル修道会
（どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：℡03（5706）8356迄。）

「カリットへの旅　ーカルメル会の歴史」
P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、2003年、サンパウロ、定価（本体2500円＋税）。

「十字架の聖ヨハネ詩集」
ルシアン・マリー編集、西宮女子カルメル会訳注、2003年、新世社、定価（本体2000円＋税）。

お　願　い

投稿くださるときには、次のようにしていただけると幸いです。

1．締め切り　毎月１０日
2．原稿サイズ：B5　左右の余白：最低１５mm
3．「心の泉」のコーナーについては、
　随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
4．「諸所の企画」のコーナーについては、
　①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
　②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
　③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
5．原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
6．寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。
　〒158-0093　世田谷区上野毛 2-14-25　カルメル会修道院
　Tel(03)3704-2171　Fax(03)3704-1764
7．**「霊性センター・ニュース」への献金の窓口が変わりました。ご注意ください！**
　郵便口座番号：00110-4-297250　加入者名：　カルメル霊性センターニュース
　通信欄に、「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の月数分×220 円切手または現金を送ってください。これには、封筒代が含まれています。
佐々木茂子　〒230-0074　横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11
Tel（045）575-5722

編集後記

またまた悲惨なテロ事件がロシアで起きてしまった。何の罪もない子供たちが多数犠牲になり、当事者でなくとも、テロリストに対する激しい憤りが湧き上がってくる。これで間違いなく、テロを力で弾圧しようとするプーチン政権やブッシュ政権にはずみがつくことだろう。

ところで、事件直後につかまったテロリストの顔つきに驚いたのは、私だけだろうか。人のよさそうな素朴な感じの青年であり、残酷な殺害者のイメージにはほど遠い。そう言えば、アル・カイダのビン・ラディンの風貌も、テロリストというより宗教者のような穏和さ・落ち着きを湛えていた。何が彼らを非道なテロ行為へと駆り立てるのだろうか。

いずれにせよ、双方に訴えたい。武力やテロで問題は解決しないと、問題はますますこじれ、憎しみの度は深まってゆくだけであると。和解の一歩は、「力の論理」を放棄する勇気にあるのではないか。十字架上のイエス…　その無力な、暴力を放棄した貧しい姿にこそ、まことの平和と一致への道が指し示されている。　（P.九里）

DECOR
REGINA
CARMELI